

施策領域別フォローアップの主な意見のまとめ

1 施策領域別フォローアップの実施状況

「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の見直しの参考とするため、県のこれまでの主な取組と成果、実績（別紙「参考資料1」）や社会経済情勢の変化等（別紙「参考資料2」）を踏まえ、17の施策領域の取組の方向等について審議した。

○ 実施状況

開催日等	審議対象領域
第2回小委員会（R6.9.10）	子供・子育て、教育、働き方改革・多様な主体の活躍、産業イノベーション
第3回小委員会（R6.10.1）	健康、医療・介護、地域共生社会、防災・減災、治安・暮らしの安全、持続可能なまちづくり、中山間地域、環境
第4回小委員会（R6.10.17）	農林水産業、観光、スポーツ・文化、平和、交流・連携基盤

2 施策の方向や取組等に関する主な意見

番号	関係する施策領域	内 容
1	全領域	<p>① <u>領域ごとではなく、複合的に課題を解決するという視点</u>が必要である。</p> <p>② 県民目線で、広島で暮らすこと、仕事をするのが<u>わかりやすくイメージでき</u>、このビジョンをみて、広島で挑戦したいとなれば良いのではないかと。県が何をしようとしていて、<u>個人や企業に対してどういうことを期待するのか見える化</u>できると良いのではないかと。</p> <p>③ 広島県は中山間、過疎地域が7割を占めているため、<u>都市部だけを考えた支援策にならないように、総合的に考える</u>必要がある。</p> <p>④ 実現困難な指標・目標も見受けられるため、<u>適切な指標・目標に見直す</u>必要がある。</p> <p>⑤ 湯崎知事が就任直後展開した「おいしい！広島」のプロモーションは、インパクトがあり、県民の方から注目された、とても良い取組だと思う。インパクトとパフォーマンスでダイナミックな施策を立ち上げて、それを後押ししていく必要がある。</p> <p>⑥ <u>少子・高齢化に伴う人口減少のスピードが速く</u>、今後、県には、市町の側面的支援だけでなく、<u>新しい広域調整的な役割が求められるのではないかと</u>。</p>
2	子供・子育て 働き方改革・多様な主体の活躍	子供を産みたいと思えるような社会を実現するため、 <u>共育て</u> を推進していくとともに、 <u>子育てと働き方はセット</u> で考えていく必要がある。
3	子供・子育て 教育	魅力的な公立学校が増えることで、 <u>子育てにかかる経済的な負担の軽減</u> や <u>共育て</u> の余裕が生まれることなどから、教育に力を入れて、 <u>主体的な学びを定着</u> させていくとともに、教職員が、子供と向き合う時間を確保できるよう、 <u>学校の働き方改革</u> を進める必要がある。

番号	関係する施策領域	内 容
4	働き方改革・多様な主体の活躍 産業イノベーション	2027年には、人間と同じように自分で考えて働く AGI (Artificial General Intelligence) が実現された社会 が予想されるなど、 新たなデジタル技術の出現・実用化の急速な進展を踏まえて 、県内企業がデジタル技術の活用等により 生産性の向上 が図れるよう、 設備投資 などに対する後押しが必要である。
5	働き方改革・多様な主体の活躍	① 性別役割分担意識などから 男女の賃金格差が依然として存在 しており、男性も女性も制約なく職や働き方を選べるようにならないといけない。 ② 新型コロナなどを契機にテレワークが定着していることなどを踏まえて、働き方の変化等に対応するために、民間企業のデジタル化に向けた支援を行うなど、DXを推進 していく必要がある。
6	地域共生社会 働き方改革・多様な主体の活躍	外国人労働者は増加傾向にあり、育成就労制度の創設などにより更なる増加が見込まれる一方で、賃金の高い大都市圏への人材流出が懸念されるなど 、高度外国人材や実習生の獲得は厳しいことが予測されるため、 外国人労働者から「選ばれる広島県」の実現に向けた施策 が必要である。
7	健康 地域共生社会 働き方改革・多様な主体の活躍	運動習慣やがん検診の受診率などの数値が男性と比較して女性が低い理由として、女性は仕事をしながら家事をしており、男性よりも忙しいことなどが考えられるため、男女共同参画社会の実現という観点も考慮して施策を推進していく必要があるのではないか。
8	医療・介護	南海トラフ地震などの自然災害や新興感染症等に備え 、病院における事業継続計画（BCP）の策定率を上げていくためには、人的資源や設備整備など病院の実態を踏まえた支援が必要である。
9	防災・減災 治安・暮らしの安全	災害発生時に、県民を安心させるためには、 自治体における準備状況を可視化し、情報開示をより積極的に行う 必要があるのではないか。 安全・安心の1つのベースとして、 地域でのつながり は欠かせない。近所ですつながらなくても、誰かとつながることで、セーフティネットが確保できるため、県として仕組みづくりに取り組むことも1つの解決策ではないか。
10	農林水産業 持続可能なまちづくり 中山間地域	持続可能という観点から、新たな課題の発生に対して対応できるように、地域を支える 人材を育成するための仕組みや育成するための支援 が必要である。
11	働き方改革・多様な主体の活躍 産業イノベーション 環境	原材料・物流価格の高騰などの影響を踏まえた 中小企業への支援については、カーボンニュートラルの取組に逆行しないよう、県として、 グランドデザインを描いた取組が重要 になってくる。
12	農林水産業	若い世代の価値観などを踏まえながら、AIなどのデジタル技術を活用したスマート化 や大規模経営などにより農業が魅力的な儲かる産業になることが必要ではないか。

番号	関係する施策領域	内 容
13	農林水産業 観光	広島県の多様な農林水産物の <u>ブランディング</u> に当たっては、生産すれば儲かる構造となるように、街単位、街よりも小さい単位など、ブランディングに取り組む地域を適切に設定することや、ブランド価値を維持するための生産量の調整を行うなど、戦略的に取り組んでいく必要がある。
14	観光	<u>AIなどのデジタル技術の発展により、観光客と地元のコミュニケーションの減少、モノ消費からコト消費の更なる強まりなどを踏まえて、外国人観光客をおもてなしする人材の育成や海外の富裕層が満足する超高級路線</u> などにも組んでいく必要がある。
15	スポーツ・文化	神楽などの文化芸術について、何のために取り組むのか整理する必要がある。力の入れ方によって方向性は変わってくるのではないかな。
16	平和	ビジョン指標が「核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成」であれば、実際に合意形成を担っていくような少数精鋭の育成に資源を投入していくことも必要である。
17	持続可能なまちづくり 中山間地域 交流・連携基盤	広島空港の利便性をさらに高めるためには、 <u>特区を活用したライドシェア型の交通網の整備</u> などを検討する必要があるのではないかな。 中山間地域などにおける交通空白地域の移動手段を確保するためには、 <u>白タクを解禁するような社会実験としての取組</u> を進めてはどうか。

3 参考（小委員会での主な意見）

【第2回小委員会】

子供・子育て

- ・ 国勢調査などから、片働きより共働きの家庭の方が子供の数が多ということが分かっている。出産後にどれだけ支援があれば良いかだけでなく、子供を産みたいと思える家庭を増やすため、女性の就労のこととしっかり関連付けていただきたい。
- ・ 「共育て」とあるが、その前の段階として、出生率を増やすためには、「共家事」というのも入れていただきたい。
- ・ 共育てをやる上では、働き方改革をもっともっと断行するべきである。それをする上では、子育てと切り離して議論するのは無理。子育て、働き方は完全にリンクしている。転出超過を解決する一番の策にもなりうるので、セットで考えていただきたい。
- ・ 現在、中山間では移住者が増えているが、子育ても楽しみたいし、仕事もしたいということで選ばれる人が多い。広島県が、子供も仕事も両方フォローできるようなところになれば良い。
- ・ 広島に行ってみたい、広島に住んでいる高校生や大学生がここに残りたい、広島っていいなと思わせるような思い切った政策を見せることができると良い。その一つとして、共育てのように、社会、企業が一緒に子供を育ていく風土が出てくると良い。
- ・ 共育てには賛成であるが、具体的に何をするのか。そこのアイデア出しをしていかないと空論に終わってしまう。
- ・ 「共育て」はキーワードとして良いが、仕事も家事も、全部やらないといけないという苦しさも感じてしまう。社会で出会う大人たちが苦しうだから、社会に出たくないと感じる子がいるように、子育てについても同じで、楽しい共育て社会のロールモデルを示していかないと、結婚もしないし家庭も持ちたくなってしまう。
- ・ 合計特殊出生率だけ見るのではなく、有配偶者率などにも目を向ける必要がある。広島県は1日に生まれる子供は49人しかいない。分娩ができる病院、診療所が減っている。広島県は子育て支援に熱心であり、希望出生率に近づいているという評価もしてきたが、別の視点から見ると問題があるということに注意が必要だ。

教育

- ・ 小中学校の端末配置について、普及率とは別に使用率を調べてはどうか。今の子は物心ついたときから、そうした端末を使いこなしている。もっと使わせてあげて、デジタルリテラシーを上げて、AIやDXの先進県になってもらいたい。
- ・ 地域の公立中学校のレベルが低いと、私立学校に行きたいとなり、そうなると塾に通う、そうすると親が仕事を辞めたり、働き方を制限するようになってしまう。公立中学校のレベルを底上げすることは非常に重要だと思っている。
- ・ 広島は教育に突き抜けて欲しい。県立広島などユニークな学校もあると思う。学費が安くて充実した教育受けられるのは魅力的であり、共育ての余裕が生まれるので、突き抜けてもらいたい。
- ・ 高校については、特色ある高校が増えると、県の元気につながる。中山間地域の公立学校では、小・中・高が連携した特色ある学校づくりにより地域が活性化している事例もある。小規模校だからできることで、それが色々な地域で派生していけば良いなと思う。

- ・ カリキュラムが新しくなってどんどん入って来ているが、教員の時間がないと、そういった教育も組み立てることができない。
- ・ 県の「遊びは学び」の取組はとても素晴らしいと思っているが、その後、小学校に入ったときに慣れなくてとまどうということを聞いたことがあり、そういった部分は課題があるのではないかと感じている。
- ・ 指標で「主体的な学び」の定着割合が非常に高いということに違和感がある。大学生を教えているが、主体的と思える学生はそんなに多くはない。
- ・ 高等教育については、叡啓大学だけでなく、広がりが必要である。実際には取り組まれていると思うので、他の大学も含めて活性化しているビジョンが見えると良いと思う。

働き方改革・多様な主体の活躍

- ・ 人的資本経営を実際に情報開示しているところを見ると、男女の賃金格差はすごく大きい。男性と女性は関係ないんだという状態の中で、それぞれの職種を男性も女性も選べるようにならない限り、働きやすさは実現できていない。
- ・ 2027年にはAG I (Artificial General Intelligence) が実現されると言われているが、それは、人と同じように、課題を切り分けてA Iに渡すのではなく、「今からこれをすれば良い」とAG Iが自分で考えて働けるようになるという世の中である。そんなときに、誰もA Iを使っていないとか、人間最適のビジネスプロセスの中で、どこをA Iに任せられるかを考えているだけでは足りない。これは大企業ほど変わりづらいが、逆に言うと、中小企業やベンチャーはすぐにその状態に適応できるはずである。そうなれば絶対に人手不足ではなくなるはずで、そのつもりでビジネスプロセスを変革させる指導が必要になってくるし、そのための設備投資をいかに助成していくかということが大事である。
- ・ 女性が年齢に見合った成長をし続けるためにも家庭や会社においても役割分担もなしにする世界が理想的であり、それを地域のモデルとしていけるかということに労力をかけていくべきである。
- ・ (就労継続の) A型、B型支援の施設が増えていて、そこに行ける人たちが増えているというのも事実であるが、そこに行けない人にも目を向けていただきたい。
- ・ 外国人に選んでもらうとあるが、選ばれる広島になるための施策をしてもらいたい。
- ・ 外国人も高度人材か技能実習系かで区分けが必要である。実習生は広島に多いが、今後は円安が続けば、技能実習も来てもらえない可能性がある。
- ・ 研究開発やものづくりの高度化等で、たくさん呼べるような仕組みがあったら良いと思う。
- ・ K P I を実数だけ見るのはミスリードとなる可能性がある。意味のある目標値を立てていただきたい。
- ・ 指標も、女性が活躍している指標として、もっと違う視点の指標も入れていただきたい。

産業イノベーション

- ・ 広島県のスタートアップ支援の中では、ユニコーン 10 の候補に入る手前のところの支援が手薄ではないかと感じる。できるわけがないと思っている人への意識改革が必要である。
- ・ ユニコーン 10 については県内で生み出すのも大事だが、県内企業にこだわっているのは、実現可能性が低く、可能性ある企業を誘致ということに真剣に取り組むべきではないか。
- ・ 企業誘致もさることながら、人に選んでもらう、来てもらう、サンドボックスなどで新しい産業を作ろうということも大事だと思う。
- ・ 挑戦することが当たり前という土壌を作ることはずごく難しい。社会を良くしたいという学生が集まっているにも関わらず、起業したいという学生は非常に少ない。挑戦する人たちと、ともに過ごすことの経験を通じて、2 番目に挑戦することを考えさせないと挑戦する風土は育たない。まずは、挑戦する人を連れてきて、挑戦することが素晴らしいという経験をしてもらう土壌を作っていくといけない。
- ・ ユニコーン企業を広島で育てるのが難しいということは我々も感じているが、そこを目指す人たちを作ることがとても重要であり、取組自体は間違っていないと思う。それがあからみんな目指そうという思いにつながっている。

【第 3 回小委員会】

健康、医療・介護、地域共生社会

- ・ がん検診受診率や運動習慣などの指標において、男性と比較して女性が進んでいないこと理由として、女性は仕事をしながら家事をしており、男性よりも忙しいということが考えられる。また、専業主婦の方で言えば、企業からの強制力もないため、様々な検診等がおろそかになる可能性があると思う。この領域に掲げることではないのかもしれないが、男女共同参画社会が進むことで、がん検診受診率の向上や運動習慣が改善されると思うので、男女共同参画のところで様々な施策を展開していくべきではないか。
- ・ そもそも元気になるためには、やることや生きがいみたいところが根本として必要だと思うので、そういう意味では社会的処方箋という、薬を処方するのではなく、やることを処方する機会を積極的に進めていくことが必要ではないか。色々な機関が一緒に良い地域をつくるという、個で進めるのではなく、みんなでやりましょうという、できないところを皆でフォローし合う、重層的支援が必要なのではないか。
- ・ 定期的に運動習慣を持つ人を増やすというよりは、高齢でも短時間で働ける環境やリモートワークなどの就労機会を増やすことで、もしかすると、女性の健康寿命を延ばす策につながっているのではないか。障害のある方に対しても、完全リモートワークという働き方で雇用している企業もたくさんある。そういったモデルをマネすることによって、多様な方が就労できる環境を促進するモデルとして、地域の魅力アップにもつながるのではないか。
- ・ 病院における事業継続計画（BCP）の策定率について、BCP の要件では、人的資源や設備整備などが求められるが、これは余力がないとできないと思う。策定率を 100%にするという事は、難しいのではないか。
- ・ 発達障害者への支援について、高校を卒業して就職するステージで、中山間地域で言えば、そもそも受け入れる企業すらないというのが現状である。広島県は中山間地域が 7 割ということもあって、過疎地域などでは非常に困っている環境がある。医療・介護や健康も含めて、都市部だけを考えた支援策にならないよう総合的に考える必要がある。

- ・ AIなどのデジタル技術の進展により、良い面は活用していく必要があるが、負の面にも目を向ける必要がある。例えば、子供の長時間のスマホやゲームなど、そういったことが健康に与える影響なども考慮していく必要がある。体に与える影響もそうであるが、心の健康に与える影響も考慮する必要がある。
- ・ 健康の領域のところで、特定検診やがん検診の受診率があまり上がらないが、一方では、悪性腫瘍などの死因の率が低いほうから1桁というように、非常に良いデータもたくさんあると思っている。そのため、目標値として、ネガティブな情報だけでなく、ポジティブな情報もKPIなどに設定することで、県民の心も明るくなるのではないか。一方で、安心してもらっては困る部分もあるので、検診に行かずに放っておくと危ないという警告、注意情報も出していく必要がある。

防災・減災、治安・暮らしの安全

- ・ 避難の準備行動ができていない人の割合を100%にするのとあるが、目標が高く、要件のハードルも高いと感じる。シンプルに、県民がこれならできるという指標を設定することも検討する必要があるのではないかと感じる。
- ・ 災害時には、できる限り通勤しないという選択も防災の取組になる。広島県庁では、職員全員がリモートワークできる環境が整えられており、こうした取組をベストプラクティスとして、民間企業におけるリモートワークの環境整備を支援していく必要がある。
- ・ 災害時に必要となる飲み水や食料などの情報が、近所同士で共有されているなど、中山間地域にも強みはある。そういったシステムが中山間地域以外にも派生すると良いのではないかと感じる。
- ・ 大学生などの若い世代も含めて、それよりも上の世代についても、防災意識を向上させるために、継続的に、防災情報を把握する機会を提供していく必要がある。
- ・ 災害発生時に、県民を安心させるためには、自治体における準備状況を可視化し、情報開示していくことが必要である。
- ・ 広島県としてインバウンドに力を入れているが、災害時に、来県している外国人観光客の方も被災される可能性がある。そういった視点も意識する必要があるのではないかと感じる。
- ・ 安全・安心の1つのベースとして、地域でのつながりは欠かせないと思う。一方で、地域でのつながりが難しくなっているという状況もある。近所でつながらなくても、誰かとつながることで、セーフティネットが確保できる。同じ課題がある人同士をつなげて、コミュニティが作られているなど参考になる事例もあることから、県として仕組みづくりに取り組むことも1つの解決策ではないかと感じる。

持続可能なまちづくり、中山間地域

- ・ 県としての役割は何かを考えたときに、県がやるべきことは、地域に対して地域で応援できる人を育成することやそういう仕組みづくりが必要なのではないか。今ある問題にもすぐに対応していく必要があるが、これから新たな問題が出てくるなかで、問題が変化しても対応できる仕組みを考えていく必要があるのではないかと感じる。

- ・ 特に、中山間地域では、人口減少に歯止めがかかっておらず、少子高齢化で言われている絵に描いたような状況が実際起きている。次のリーダーが生まれず、循環もできず、農地の事業や後継者の育成などもできず、人が外に出てしまっているというのが現状である。仕事の創出がないから外に出てしまうという大きな課題がある。広島県では、チーム 500 などにより、各市町に、地域に根差したリーダーを育て、地域をデザインしていくための支援をされているが、リーダーがリーダーを育てて、その地域に何が必要か、課題解決に向けたきっかけづくりの流れが生まれており、非常に良いと思う。
- ・ 中山間地域は、人口減少や高齢化社会の将来像でもあるので、中山間地域で挑戦して解決策を見出していく必要があると思っている。地元出身や移住の方もいるが、みんな地域のことが好きで、やるぞ、という気持ちの若者もいて、地域を維持するためには何が必要かを考え議論している。各地域でそういった場があれば、中山間地域の課題解決に向けた後押しになるのではないか。
- ・ 全ての中山間地域の集落を何とかして残すというのは無理だと思っている。どこに集約していくのかという話を、本来的にはすべきなのではないのか。
- ・ 集落が徐々に衰退するということは否定できず、どうにか食い止めて人を維持するとも、思っていないが、広島県で楽しく生活ができて、広島県が盛り上がっているとなると、そこに人が集まってきて、その地域の魅力が高まり、さらに盛り上がっていくような環境を作る必要がある。そのきっかけとして、チーム 500 を県が支援することで、市町が機能すると思うが、県と市町で温度差が出ないようにしっかりと連携する必要がある。

環境

- ・ 瀬戸内海のブルーカーボンの取組など、自助努力でやっている企業等を県や市町であるともっとダイナミックに支援できるのではないかと。原材料・物流価格の高騰などの影響を踏まえた中小企業への支援については、カーボンニュートラルの取組に逆行しないことが重要である。また、大きな組織で取り組まないと手を打ち切れない場面もあるので、県として、グランドデザインを描いた取組が重要になってくる。
- ・ 中山間地域において、「環境」領域に限らず地域を盛り上げたい、地域支援をしたいという人はたくさんいるが、持続するためには利益を上げ続けるということが課題となってくる。地域課題を解決するための取組に対して、補助金以外で、例えば、空き家の紹介など、県として支援できるのではないかと。
- ・ 二酸化炭素の排出量となると製造業という話になりがちで、日々の我々の生活を変えていくということも含めてあらゆる手を尽くしていかないと、環境問題は解決できず、危機的な状況であると思う。例えば、オフィスの消灯、省エネをやることによる労働時間の短縮化、それによる子育ての実現のように、何か面白いモデルケースを作るなど、全体のグランドデザインの中で子育てと持続可能な地域ということをセットで考えいけると良いと思う。

全体

- ・ ダイナミック、インパクト、パフォーマンスというキーワード。施策はダイナミックに打ち出し、それを伝えていくなかで、インパクトが重要である。ある側面、パフォーマンスが必要で、湯崎知事が就任直後「おいしい！広島」のプロモーションを展開されたが、すごくインパクトがあって、県民の方から注目された、とても良い取組だと思う。インパクトとパフォーマンスでダイナミックな施策を立ち上げて、それを後押ししていく必要がある。
- ・ 複合的に課題を解決するという視点が必要である。領域ごとに縦割りになっており、複数の領域に関して横串が通るような施策や横串を通してから落とししていくような取組などの在り方を考ないと、ベクトルが1個にならないのではないか。

【第4回小委員会】

農林水産業

- ・ 農業者の平均年齢が70歳を超えている状況から、ICTの導入に対して抵抗のある農業者が多い。スマート農業の実証を進めていく上で、農業者に理解してもらうためには、農業者と行政との間に立って、わかりやすく説明できる人材が必要ではないか。
- ・ 学生の人口が減っているなか、人材確保において農林水産業が他産業に負けているなかで、農業が若い人に刺さるように、環境を整えていくとともに、泥臭い部分のある農業をどうやってキラキラしたものに見せていくかも必要になってくる。
- ・ 農業者が、広島県のアンバサダーとして、この人が農業をやっているからやってみよう、となるような環境を作っていくことも必要ではないか。広島県は様々な農産物、海産物があり、街単位、もしくは、街よりもっと小さい単位で何かしらブランディングしていくこと、ある程度大きなかたちでまとまっていくことに取り組むことも重要である。
- ・ 先になるかもしれないが、若い人がAIを使って、農業が泥臭いだけでなく、機械化されるなど、農業が魅力的な産業となしてほしい。大規模経営などにより、収入があると農業が魅力的になっていくと思う。
- ・ 比婆牛がブランディング化され、生産したら儲かるようになってほしい。
- ・ 畜産に関しては、生産者が5割減少しており、家業的環境で行われていることが多く、そういった環境を企業経営に変えていく必要がある。また、家業であっても、事業承継などで新たな魅力を生んで利益率を高めていくなど、今後考えていくべき課題になってくる。
- ・ 若い世代に、農業に入ってきてもらうには、物理的な労働環境の美しさについても同時に追求する必要がる。そうすることで高度な人材を呼び込み、農業の世界でも挑戦したいと思える人が増えるのではないか。
- ・ 高齢化に伴い、人口が減っていくので、担い手を作るのは重要であるが、たくさん作るべきかどうかは考える必要がある。ヨーロッパの一流ブランドは、キープ・マーケット・ハングリという考え方のもと、供給管理や生産管理をして、販売額をコントロールしている。同じように広島和牛、比婆牛に関して、たくさん作るよりも、一定に抑えて、例えば、ヨーロッパ中東のお金持ちに、食べてもらえるように、大量生産・大量販売ではなく、質の高いものを手間暇かけて作っていくような、マーケティングも考えていく必要があるのではないか。

観光

- ・ 連泊してもらうために、海や山での体験、スタジアムやアリーナを活用した夜のイベントなどにより、夜泊してもらい必要がある。そして、夜も広島で過ごしてもらい、山の幸、海の幸や高級レストランで比婆牛を食べてもらいたいと思っている。観光は農林水産業や中山間地域含めて、コト消費につなげていく必要がある、一番横串が刺しやすいのではないか。
- ・ 規模の小さなエリアについても外国人観光客へのおもてなし対応ができるとより良くなるのではないか。観光人材の育成に力を入れていくべきではないか。
- ・ 海外からの観光資源を取り込むことは重要な課題である。連泊してもらい、広島に何度も来てもらうためには、地域の人の温かみを感じてもらい必要がある。外国人観光客をおもてなしするホスピタリティ産業の方々への語学研修に力を入れて取り組んでも良いのではないか。また、海外の富裕層が満足する超高級路線に取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・ 多言語全てに対応できるAIやシステムをまず整備して、人は、別のサービスができるような環境を整備するべきではないか。
- ・ 観光施設が収入を得て観光資源が磨かれる好循環を県が描いていく必要があるのではないか。
- ・ オーバーツーリズムが懸念されるなか、地元の方々の生活が脅かされるような結果にならないように、生活と観光というバランスは検証しながら、マネジメントする必要がある。
- ・ 観光がスマートフォンですべて解決してしまうことにより、観光客と地元のコミュニケーションをとる場面が極端に少なくなったと感じる。困っている外国人観光客に対して、声をかけて、コミュニケーションが生まれて親和性が生まれるとうい循環があった。おもてなしの機運が高まり、広島に来るとみんなが声をかけてくれる状態にならないと、ゲストとの関係性が築けないので、積極的なアプローチが必要となってくる。
- ・ 農業、林業、漁業などの1次産業が観光のコト消費になるのではないか。中山間地域での体験を通じて、地元の方とのふれあいにより観光客と地元の方の満足度も高まる。広島には島もあって、海もあって、すべての産業がそろっていると思うので、そういうところでコト消費と、観光とセットでできたら良いと思う。
- ・ ビジョン指標の「観光消費額」や「観光客の満足度」に、課題の「観光関連事業者だけでなく幅広い事業者が観光に携わる」必要があるのか、つながりがわからないため整理する必要があるのではないか。
- ・ 世代別のニーズに対応するマーケティング視点が必要ではないか。誰にも刺さるコンテンツでは効果が小さい。

スポーツ・文化

- ・ 文化芸術を楽しむという個人の観点では、時間とお金に余裕がないとできない。文化的な催しがたくさんあることだけではなくて、県民がそれに親しむ余裕のある暮らしを実現することが欠かせない。単独で議論するのではなく、所得を上げて、一段暮らしを豊かなものにするというような施策が必要ではないか。

- ・ 広島には、スポーツには欠かせないプロダクトを作っている企業があることも宣伝材料になるので広く発信した方がいい。
- ・ 見る方のスポーツが盛り上がっているが、そことつなげて、する方のスポーツを、教育という観点から盛り上げることで、スポーツをするなら広島に住むということで、転入の増加、転出の防止につながるのではないか。
- ・ 健康のため、優秀な人材の発掘のため、学校と連携し、地域でスポーツを体験できるように、指導する人材を育成するなど、地域移行の仕組みが必要ではないか。そのことで、教員の働き方改革にも繋がるのではないか。
- ・ 少子化などの影響により、例えば、サッカーや野球においても、学区だけでは完結することが難しくなっている。
- ・ 神楽を育てていくことは良いことだと思うが、何のために取り組むのかは整理する必要がある。文化として必要なのか、観光資源として育てたいのか、県民の一体感を形成するために媒体としたいのか、力の入れ方により方向性は変わってくる。
- ・ 歴史を知っているということは、おもてなしにおいても重要である。諸外国の学生は郷土の歴史を良く知っており、交流を良くしていくために、観光客が来られた際に、対話をして、広島を興味深いと思ってもらうためにも、郷土の歴史を知っている人が増えていくことは必要である。
- ・ 国民スポーツ大会の見直しの機運が高まっているが、インクルーシブという表現があるが、パラリンピックの国体版、都道府県版の方がむしろ盛り上がるのではないか。そうすることで、スポーツをする障害の方々も参加機会が増えるのではないか。
- ・ 義務教育から色々なスポーツを体験でき、道具も施設も揃っていることが日本の良いところであり、魅力であった。働き方改革等の一環で地域移行が進んでいくと思われるが、支えきれない学校区、地域について、市町ではできないところを県の役割として補完していく必要があるのではないか。

平和

- ・ 目標の立て方、ビジョン指標とK P Iの整合性を精査するタイミングに来ている。平和に関して学んでいる人を増やしていくことは、これはこれでとても意味があることだと思うが、ビジョン指標が「核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成」であれば、実際に合意形成を担っていくような、具体的な行動を担う少数精鋭、国際的な問題に関わっていく人材育成に資源を投入していくことも必要だと思う。
- ・ 目指す姿とビジョン指標が非常に曖昧で、県で何をするのか、県がどのように関わることが見えないと思った。平和に関してだけは唯一無二の広島の重要な資産であり、ある意味のブランドである。それをテコに、国際的なプレゼンスを高めていくことがすごく大事な戦略で、平和に関する国際的な会議等に必ず広島県から誰かが行っているといったことを目指すべきだと思う。また、広島県こそが平和に関するプロフェッショナルを育てる教育をするべきであり、県立の大学にそういった学部を創設すればいいと思う。
- ・ ビジョンに「国際平和拠点」と書いてあることにすごく重みがあると思う。国際世界の中での日本の役割、その中の広島の役割はすごく大きくて、国際的にということであればもっともっと力を入れて取り組んでいってもいいのではないかと思う。

交流・連携基盤

- ・ 広島空港への交通アクセスは、高速道路が通行止めになったり、雪でリムジンバスが動かなくなることもあるなど、利便性が悪い。立地を考えると仕方ないところもあるが、空港の周辺の発展させ、人流を増やすことでアクセスの利便性の向上にもつながるのではないかと。
- ・ 広島空港は、レンタカー乗り場への直結やカーシェアの活用など利便性が高くなっているが、さらに高めるためには、広島空港と各地を結ぶウーバーのようなライドシェア型の交通網の整備を特区で行ってはどうか。
- ・ 夜の便に乗ろうと思って広島空港に来て、商業施設が開いていない。店員の方のワークライフバランスをどうするのかという問題もあるが、商業施設を飛行機の利用者が利用しやすいものとする必要があるのではないかと。
- ・ 宮島から宇品などの航路を使ってみると、意外と船の方が早かったりするし、海外でもスイスとフランスの間のレマン湖など、日常生活の中で海上交通が使われている例もある。貨物輸送だけでなく、人々が移動するための水上交通の充実を図る必要があるのではないかと。
- ・ ウーバーは、タクシー会社が介在して使い勝手が悪いため、特に中山間地域では白タクを解禁するような社会実験としての取組を進めてはどうか。

全体

- ・ ビジョンが、行政がこうしたいという行政目線であると感じるので、県民目線で県民にとってはどういう暮らしになるのか、県民にわかりやすく整理する必要がある。
- ・ どんな生活がより豊かで快適な生活なのか見える化されて、描かれることが重要である。県が何をしようとしていて、個人や企業に対してどういうことを期待するのかが見えると良いと思う。誰が何をすると、何が手に入るのか、そこがうまく伝わるような表現ができると良いのではないかと。これまでの小委員会や今回のスポーツ・文化の領域など通じて、最終的に働き方改革というのが基盤になるように感じた。
- ・ 広島ならではの豊かな暮らし、全国的にも自慢できるレベルだと思うので、そこを中核に、ビジョンの磨きこみに取り組んでいただきたい。
- ・ 広島で暮らすこと、仕事をするのがわかりやすくイメージでき、このビジョンをみて、広島で挑戦したいとなれば良いのではないかと。
- ・ 行政にはこれで終わりという解がなく、1つの目標を置いたとしても、それがすべてではない。住んでいる人が住んでるところが大好きで、一緒に取り組んでいくことで、目標変わるかもしれないが、その動きのなかで、県が1つ目標を示して、県民がついていって、より良くなるのではないかと考えている。そこに愛はあるのか。愛を持って取り組んでいきたい。
- ・ 県は、市町が自立できるよう側面支援の役割を担っているが、少子・高齢化に伴う人口減少のスピードが速く、今後、県には、新しい広域調整的な役割が求められるのではないかと。1つは人材について、広域化をしても足りない部分、特に技術的な人材確保ができなくなる部分について、もう1つは、居住誘導区域について、市町の役割で進めていくことは問題ないが、一方の地域では厳しく、もう一方の地域では緩やかになるなど、整合性が取れないところも、人や立地で状況は変わってくるが、県として少し広い視点から調整することも必要になってくるのではないかと。